

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 14 号

第 14 週(4月 4日 ~ 4月 10日)

発行年月日:平成17年(2005年) 4月 15日

発行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (14週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (14週)	全国 (14週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	3	173	9	576
	腸チフス	0	0	15	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	186	21	3,640
4類感染症	E型肝炎 ^{(*)2}	0	0	12	1	34
	オウム病	0	0	17	1	39
	デング熱	0	1	7	2	45
	マラリア	0	0	17	2	73
5類感染症	アメーバ赤痢	0	1	179	8	580
	ウイルス性肝炎	0	0	88	5	299
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	21	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	0	280	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	15	2	85
	梅毒	0	0	137	4	516
	破傷風	0	0	18	2	100
急性脳炎	0	0	60 ^{(*)2}	1	164	

*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:平成17年第12週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

2)定点把握の対象となる5類感染症

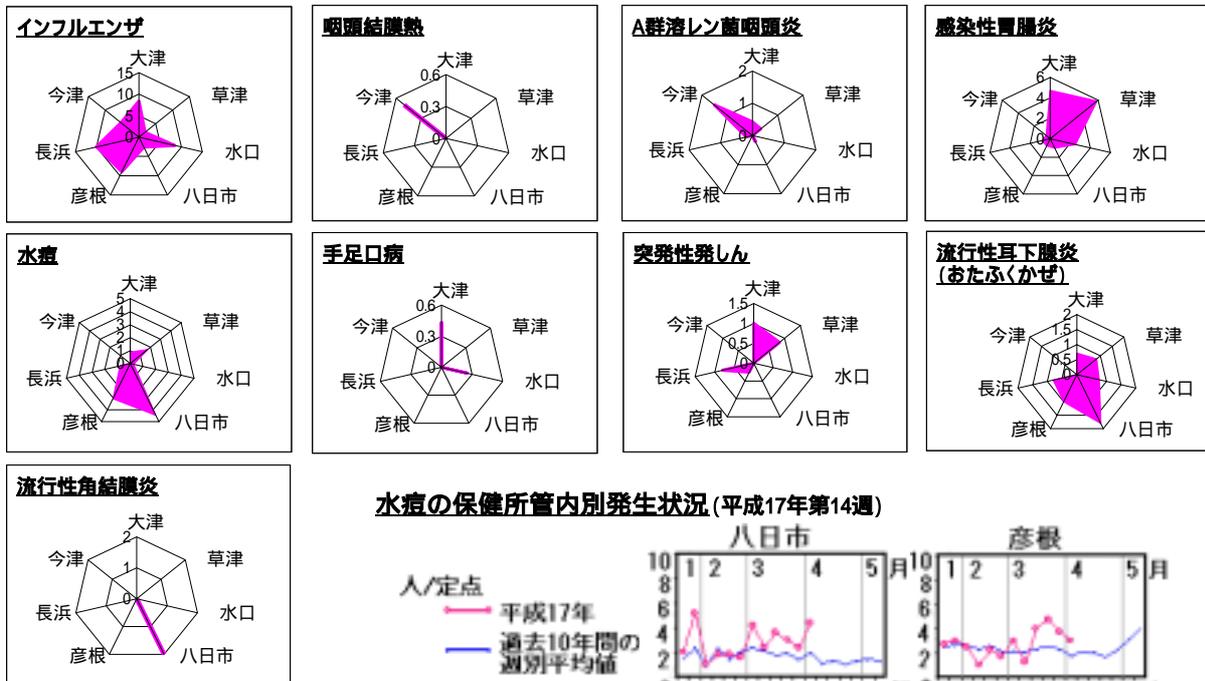
(1)疾病別・週別発生状況(第9~14週、2/28~4/10)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	9週		10週		11週		12週		13週		14週	
	(2/28~)	(3/7~)	(3/14~)	(3/21~)	(3/28~)	(4/4~)	10	11	12	13	14	
インフルエンザ	49.16	45.49	28.06	23.02	11.57	6.22						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	0	0.06	0	0.12	0.03	0.03						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	0.58	0.36	0.45	0.55	0.30						
感染性胃腸炎	4.03	4.27	5.33	3.21	3.52	2.76						
水痘	2.09	1.39	1.64	1.24	1.36	1.67						
手足口病	0.03	0.06	0	0.15	0.21	0.12						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0.12	0.03	0.09	0	0						
突発性発しん	0.36	0.64	0.39	0.67	0.73	0.52						
百日咳	0	0	0	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0.06	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	0	0.03	0	0.03	0.03	0						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.76	0.82	0.61	0.82	0.91	0.91						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.14	0.29	0.29	0.43	0.14	0.29						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0.14	0.14	0	0	0.14	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第14週、4/4~4/10)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	6.22	8.36	1.80	8.43	2.50	8.86	10.00	5.33	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.03	0	0	0	0	0	0	0.50	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.30	0.43	0.33	0	0.20	0	0.20	1.50	
感染性胃腸炎	2.76	4.71	5.83	2.50	1.00	0.75	0.80	0.50	
水痘	1.67	0.86	1.67	0.25	4.40	3.00	0.80	0	
手足口病	0.12	0.43	0	0.25	0	0	0	0	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0	
突発性発しん	0.52	1.00	0.83	0	0	0.25	0.80	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻疹(成人麻疹を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.91	0.71	0.83	0.75	1.80	1.00	0.80	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.29	0	0	0	2.00	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)

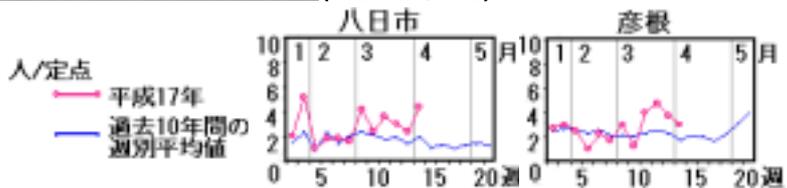


今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。A群溶レン菌咽頭炎は今津でややく発生しています。感染性胃腸炎は大津および草津で先週に引き続き多くなっており、水口、八日市および長浜では先週より増加しています。

また、水痘の定点当たり患者数を過去10年間の週別平均値と比較すると八日市および彦根で多くなっています(水痘の保健所管内別発生状況のグラフ参照)。

水痘の保健所管内別発生状況(平成17年第14週)



- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

インフルエンザの発生は減少傾向持続 水痘の発生は八日市保健所管内で増加

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(3月28日～4月3日)の報告数よりさらに少なくなっており、インフルエンザについては5週連続して減少しています。今週、増加を示した疾患は水痘および流行性角結膜炎のみで、他の疾患については減少あるいは横ばいとなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

インフルエンザについては、先週の定点当たり患者数11.57よりさらに減少し6.22となっています。長浜保健所管内においては「感染症の流行の警報・注意報システム(注)」による**流行発生警報**が出されていますが、他の保健所管内の定点当たり患者数は10人以下となり流行発生警報は出されていません。

流行発生警報は定点当たり患者数が30人以上となった時に出されますが、一度警報が出ると定点当たり患者数が10人以下になるまで継続して出されます。

* 詳細については警報・注意報発生システムとは(国立感染症研究所感染症情報センター)参照

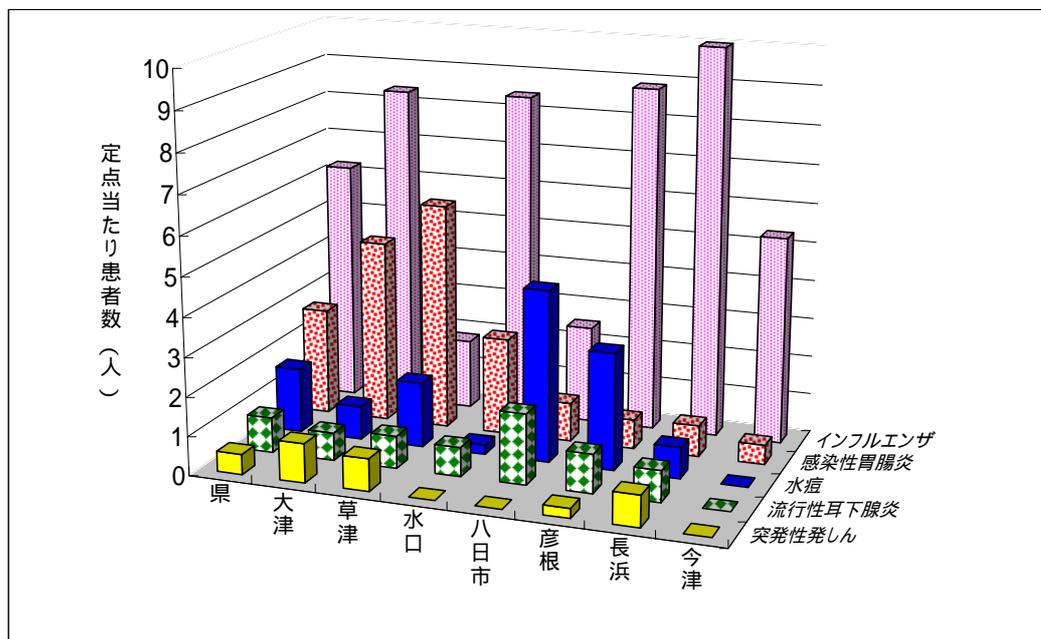
<http://idsc.nih.gov.jp/disease/influenza/inf-ho/guide04.html>

水痘については、先週の定点当たり患者数1.36よりやや増加し1.67となっています。特に八日市保健所管内において増加傾向を示し定点当たり患者数は4.40となり、彦根保健所管内においても定点当たり患者数は3.00と先週に引き続き多くなっています。

また、年齢別発生状況についてみると12カ月未満が7.3%、1歳が23.6%、2歳が18.2%、3歳が27.3%となっており、1～3歳で全体の69.1%を占めています。

流行性耳下腺炎については、先週の定点当たり患者数0.91と同じで横ばいとなっていますが、八日市保健所管内では先週に引き続き1.80と多くなっています。

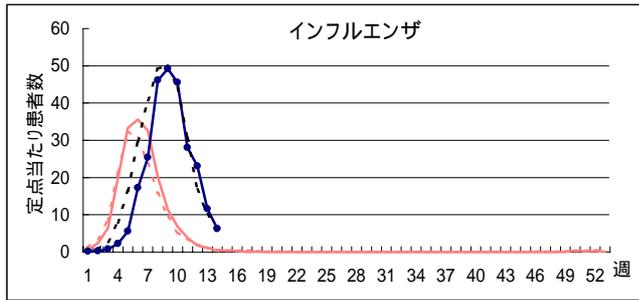
上位5疾患の保健所管内別発生状況(平成17年第14週、H17.4.4～H17.4.10)



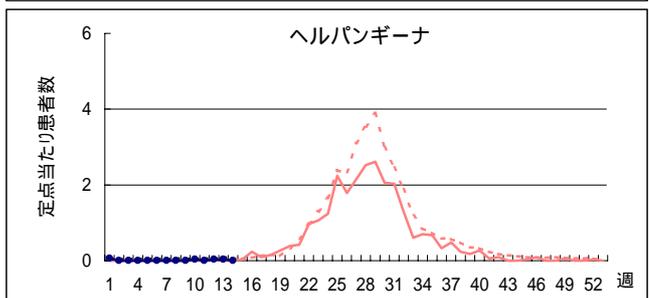
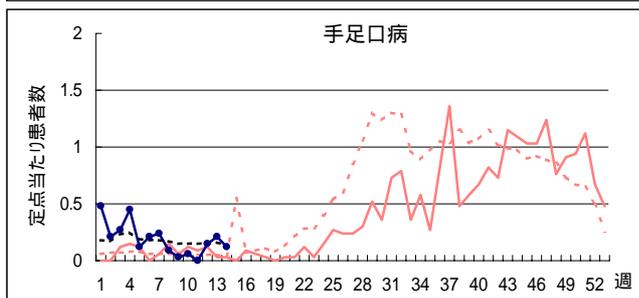
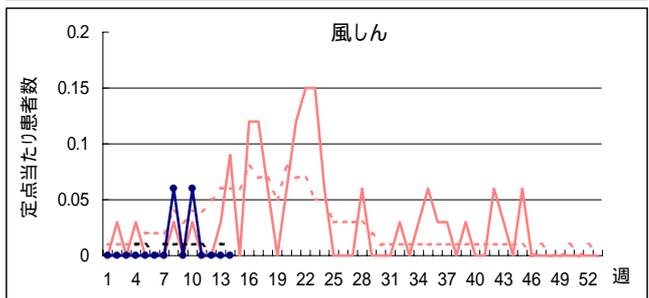
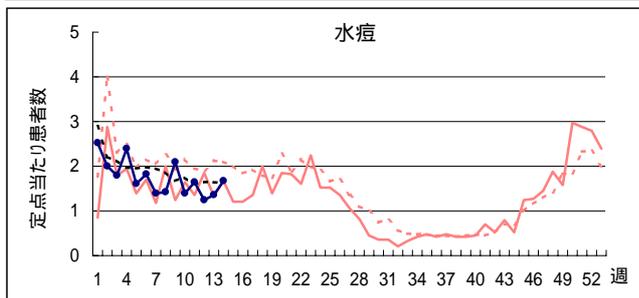
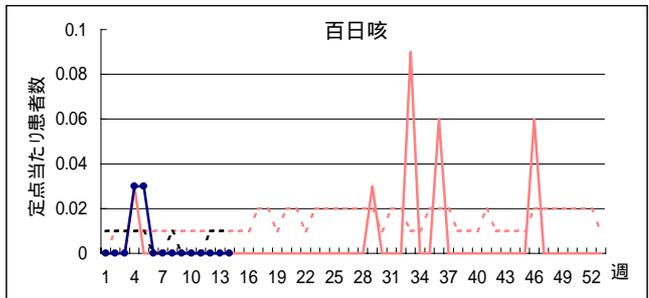
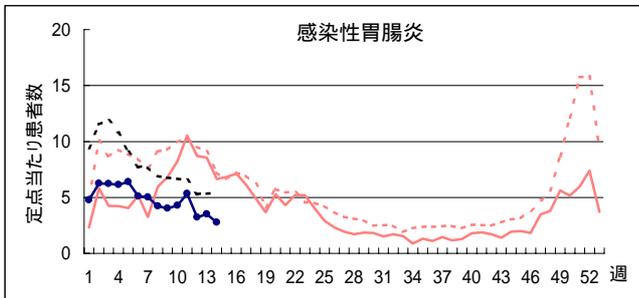
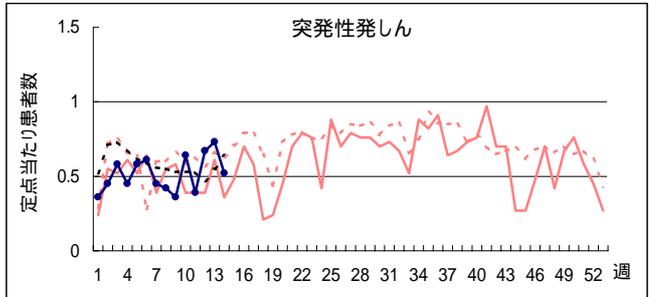
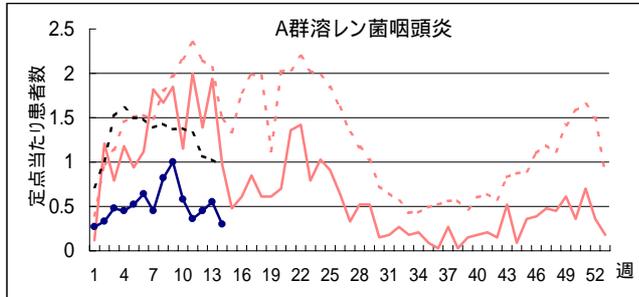
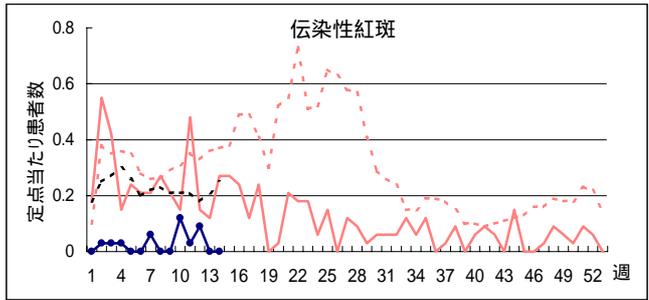
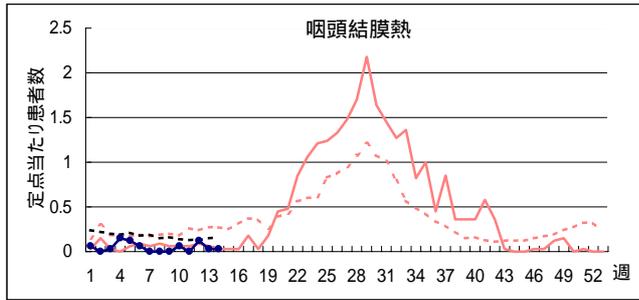
第14週における定点当たり患者数上位5疾患(インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、流行性耳下腺炎、突発性発しん)の保健所管内別発生状況についてみると、インフルエンザの発生は草津および八日市保健所管内で減少していますが、他の保健所管内においてはかなりの発生がみられます。特に長浜および今津保健所管内におけるインフルエンザの報告数は他の疾患の報告数と比較すると非常に多くなっており、長浜保健所管内では全報告数の74.6%、今津保健所管内では全報告数の76.2%を占めています。

また、感染性胃腸炎の発生は大津、草津および水口保健所管内で多くなっています。水痘および流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)については八日市および彦根保健所管内で多く発生しています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第14週、H17.1.3～H17.4.10)



H16 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第14週、H17.1.3～H17.4.10)

H16 { 滋賀 ———— 全国 }
 H17 { 滋賀 —●—●— 全国 - - - - - }

